




<p>教育事業名</p>	<p>平成27年度 国立室戸青少年自然の家教育事業</p> <p style="text-align: center;"><b>日本列島ともだちの輪 冬編</b></p>		
<p>事業の趣旨</p>	<p>お互いに異なる地域子どもたちが交流し、生活習慣や自然環境等の違いを体験することで、ともだちの輪を広げ、郷土の良さを再認識するとともに、他者を尊重する気持ちを育むことをねらいとする。</p>		
<p>対象者</p>	<p>小学生（5・6年）・中学生（1・2年）</p>		
<p>実施期間</p>	<p>平成27年 12月26日（土）～平成27年 12月28日（月）2泊3日</p>		
<p>参加者 （人数／定員）</p>	<p>27名／30名</p>		
<p>活動プログラム</p>	<p style="text-align: center;">12月26日（土）</p> <p>8:30 高知出発 14:00 丹波到着・つどい 14:30 交流ゲーム 16:00 丹波の黒豆で           スイーツづくり 17:30 夕食 19:00 リーダー・各班との           交流会 20:30 入浴・健康チェック 21:30 消灯・就寝</p>	<p style="text-align: center;">12月27日（日）</p> <p>7:00 朝食 8:00 バス出発 9:30 「植村直己冒険館」       見学 11:30 昼食 13:00 「兵庫県立コウノトリ       の郷公園」見学 15:30 バス出発 19:00 お別れパーティー       感想発表会 21:00 入浴・健康チェック 22:00 消灯・就寝</p>	<p style="text-align: center;">12月28日（月）</p> <p>8:45 バス出発 9:45 化石発掘体験（元気村       かみくげ）       「丹波竜化石工房ちー       たんの館」見学 12:00 感想・アンケート 12:30 おわりのつどい       昼食 13:15 バス出発 18:00 高知はりまや橋観光       バスターミナル着</p>
<p>活動の様子</p>	<p>12月26日 土曜日（1日目）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>夏編から4ヶ月と少し経った再会だったが、丹波の参加者は、その長い時間を感じさせないほど自然な笑顔で迎えてくれた。はじめのつどいの後、さっそく班ごとに輪になり交流した。夏編と同じ構成の班だったので、お互いにうちとけ、話し合いを進めたり、ボランティアリーダーの出題するクイズに答えたりできていた。そして、食堂に移動して行ったスイーツ作りでは、班ごとにクレープを焼き、食堂の方があらかじめ煮てくれていた丹波特産の黒豆や大納言小豆と生クリームを巻いて食べた。道具の準備や後片付けの役割分担をよく話し合っただけでなく、職員やボランティアリーダーとも楽しく活動できた。</p>		

12月27日 日曜日（2日目）



暖冬による雪不足のため、今年はスキーを実施することができなかった。そこで、午前中は植村直己冒険館に行き、挑戦し続けた植村さんの生き方について、班で協力してクイズに答えながら施設見学を行った。午後は兵庫県立コウノトリの郷公園に移動し、班ごとに映像を見ながら説明を聞いたり、実際に飼育されているコウノトリの給餌風景を見たりして、環境問題や自然と人との共生について学習した。冬編のスキーを楽しみにしていた参加者にとっては残念な内容となったが、代わりに班で行動する時間が増え、仲間との絆をより深めることとなった。そして夕食時のお別れパーティでは、どの班も笑顔で会話しながら食事を楽しむ姿が見られた。夜の感想発表会では、スライドショーで夏編からの活動を振り返った後、班ごとに前に出て、一人ひとりがこの事業を振り返り、現在の思いを発表した。「スキーはできなかったけれど、いろんな勉強、体験ができ、友だちがいっぱいできた。」「冬編でもっと仲が深まった。」という感想が多く、それぞれの成長の跡も感じられた。小学5年生のときから毎年参加している中学2年生は、来年参加できないさみしさと感謝の気持ちを伝えていた。

12月28日 月曜日（3日目）



2つのバスに分かれて丹波少年自然の家を出発した後、丹波竜化石工房「ちーたんの館」の見学と、「元気村かみくげ」での化石発掘体験を行った。「ちーたんの館」では、丹波竜化石第一発見者の村上さんの話を聞き、班で施設内を見学した。また、化石発掘体験では、化石発見現場から掘り出した石を割り化石をさがしたところ、恐竜の小さな骨やカエルの骨の化石を見つけて、発見者として登録してもらった参加者もいた。どちらも高知県ではできない体験で、班の仲間と一緒に1億2千万年前の丹波に思いを馳せることができた。おわりのつどい後、班で食べる最後の昼食で全日程が終了し、夏編同様、丹波参加者やリーダー、職員さんと握手やハイタッチをしながらバスに乗り込んだ。乗車後も立ち上がって手を振り続け、バスがなかなか発車できないほど別れを惜しんでいた。

2泊3日と短い期間ではあったが、夏編で築いたともだちの輪を冬編でさらに広げ、来年の再会を期待する参加者の姿が印象的だった。

#### 事業の成果

・丹波の黒豆や小豆を使ってのお菓子作りや施設見学等で互いに協力し合うことができた。スキーができなかったことは残念だったが、代わりに班単位で活動する時間が長くなり、絆が一層深まったと言える。活動そのものが目的で参加した子どもたちも、他者と交流し心を通わせることの大切さを改めて感じる事ができた。

<b>事業の課題</b>	・今年はずきができなかつたため例年とは違つた活動内容となつたが、毎年同じような内容になつてきているので、今後もこの事業を継続し、ねらいを達成するためには、丹波少年自然の家との連携を深め、より有効な活動に絞つて計画、実施するとともに、一人ひとりが自分の目標をもつて臨むような働きかけが必要である。
<b>参加者の感想</b>	・初めて丹波に来て、コウノトリや植村直己さんについても知ることができた。別の班の人とも夏編の時より話せる機会があつて、もっと仲良くなることができたので、すごく楽しかったです。できたら来年も応募して来られたらいいなと思つています。 ・室戸で別れて4ヶ月たちましたが、丹波の友だちは僕のことを覚えてくれていたので、とてもうれしかったです。ズキができなくなつてしまつてとてもショックでしたが、楽しかつたことが山ほどありました。 ・丹波の友だちと交流ができて良かったし、冬休みのいい思い出になつたので、友だちにこの日本列島ともだちの輪のことを紹介したいと思います。 ・今年中2なので、来年参加することはできないけれど、高校に入つたらボランティアリーダーとしてこの事業に参加したいです。